



農業技術センターニュース

目次					
	ニラえそ条斑病の感染から発病までの日数と温度との関係	…1		グロリオサ新系統「高育1号」の催芽方法	…4
	点滴チューブを利用したニラの合理的なかん水施肥技術	…2		ナシの汚れ果症発生原因	…5
	日射比例かん水自動制御による高糖度トマトの根域制限栽培	…3		傾斜地茶園におけるチャノコカクモンハマキに対する交信攪乱剤の防除効果	…6

ニラえそ条斑病の感染から発病までの日数と温度との関係

表1 アイリスイエロースポットウイルス保毒虫接種によるニラえそ条斑病の発病と温度条件

温度条件*	発病株数											
	8日後	9日後	10日後	11日後	12日後	13日後	14日後	15日後	16日後	17日後	18日後	19日後
①	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
②	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
③	3											

*①25℃恒温16時間（明条件）8時間（暗条件）、②20℃8時間（明条件）12.5℃8時間（明条件）5℃8時間（暗条件）、③40℃8時間（明条件）32.5℃8時間（明条件）25℃8時間（暗条件）



ニラえそ条斑病の症状

ニラえそ条斑病はアイリスイエロースポットウイルスによる病害で、国内では2003年に高知県で初めて発生が確認されました。本病害はネギアザミウマによってウイルスが媒介されることにより発生するため、ネギアザミウマの加害と発病との関係を詳しく調べることで防除対策を講じるうえで重

要です。そこで今回はネギアザミウマの加害から発病までの日数と温度との関係について調査を行いました。

ウイルス保毒ネギアザミウマで加害させたニラを、夏期を想定した40℃8時間（明条件）32.5℃8時間（明条件）25℃8時間（暗条件）で管理すると8日後には供試した3株すべてで発病が認められました。25℃恒温16時間日長では10日後に3株中1株で、19日後には2株で発病しました。冬期を想定した20℃8時間（明条件）12.5℃8時間（明条件）5℃8時間（暗条件）では16日後に1株で発病したのみでした（表1）。

以上の結果から、えそ条斑病の感染から発病までの日数は高温により短縮されることが明らかとなりました。

（病理担当 下元祥史 088-863-4915）